

私の経験したキリストの聖潔の恵み

◆日本宣教会監督・久我山宣教会牧師 中原 幸茂◆



私は十四才の八月一日夜、「もし己の罪を言いあらはさば、神は真実にして正しければ、我らの罪を赦し、凡ての不義より我らを潔め給はん」(イヨハネ一・9)の御言が強烈に私の魂に迫り来て、我が家で一室に入り、教会出席を始め、一年七ヶ月目に、聖霊なる神のコンピクションに打たれて、それまでのなはだ悪かった示されたすべての罪を神の御前で、正直に、すべて告白し、我らの主イエスの十字架の死は、我がすべての犯罪のためであったと、心から告白した。そのとき私の祈りは「神よ、私の犯して来た過去のすべての罪は全く赦されて、今死んでも天国に行ける者として下さったことを感謝します」と何度も涙の祈りに変えられた。それから私は一兩日に「恐らくは苦き根はえ出でて汝らを悩まし、多くの人これに由りて汚されん」(ヘブル二・15)とあるごとく、外面にはあらわれないが時々心中に「むかむか」とわき上る悪しき思いが起る事実があることと自分の救いの恵みさえ疑い出した。救われて約二ヶ月経った、ある礼拝で相田喜介先生のメッセージを聞きながら、初めから驚かされたことは、先生は私の心中の内幕を知っておられることであった。礼拝直後、講壇に進み出て「僕を深めの恵みに導いて下さい」と祈っていたのだが、聖霊に示されながら一つのことを言い残した。それより二ヶ月目の新年聖会に示されて、会衆の前で公然と神におわびの祈りをして、深めの確信をえた。救いの恵みが神に対する、子とせられた平和であったが、深めの恵みは、キリストにある心中のより深き休息であることを知った。これは僕の十五才の新年聖会においてであった。十八才の中学卒業の年が来たとき、神の自分に対する召命は伝道者になることであるとの召命観は不動のものとなっていた。父はそれに不賛成で、ついにある夜九時半頃、着のみ着のまま鉄拳制裁で私を家より追い出すことになった。その真暗な夜の屋外に立った時、私の経験したことは正に「イエス・キリストの顔にある神の栄光」の知識であり、自分のよく暗誦していた詩篇二三篇が文字通り、この事情にある私にとって活きた神よりの、直接の言として味わわれ、少しの恐れさびしさも全くないばかりか、「たとえわれ死のかげの谷を歩むとも、禍害をおそれじ。なんじ我とともに在せばなり。」であった。

『きよめ—教会の破れを繕うもの』

ウエスレアン・ホーリネス教会連合・中央教会牧師 本間 義信

キリスト者に、何時サタンは誘惑をしかけるか。多分、御前を離れて、世の楽しみ、この世の栄えを求めつつある時と思われるであらう。

ところがそうとは限らない。カインは礼拝時にアベルに憎悪を感じ、彼を殺してしまった。アナニヤとサツピラは、献金の準備をしている時に、金額をごまかそうとした。パウロの妨害者たちは、パウロが入獄すると騒ぎを増やそうとするかの如く、ねたみて伝道をはじめた。

聖なる神への奉仕の中にも、ねたみが入り込むとすれば、力をつくしてホーリネスを求めねばならない。

きよめられること、ホーリネスは、どのように定義することができるか。

神を第一にし、自らのことを第二にする心である。つまり、キリストの心を己が心とする心とある(IIコリント五・9)。

何とかして神に喜ばれようとする思いで心が満たされている状態である、とも言えよう。キリストがわたしのうちに生

きておられること、すなわち、聖霊が私の心を完全に支配し、御心に従い、御旨に応答せんとする思いで一杯になっている信心とも言ふことができる。

このきよめの信仰は、教会内の具体的な問題に働いてキリストの体の破れを繕い、教会を建てる働きをするものである。

一、奉仕について

(1) 教会バザーの為の奉仕の時のことである。仕立て屋さんの奥さんが、持ち前の腕で、手造り品を次々に仕上げている。一緒に奉仕していた姉妹たちが、感嘆の声を上げて、さすがプロは違うと言っていた。

ところが、本人は、「私にだけさせて」と不満で一杯になってしまった。この不満を乗り越えるのにしばらくかかったと後にあかしをしてくれた。

きよめられないと、「お恵みて私は、これだけ奉仕できた。主よ、感謝します」とはなかなか言えないものである。

(2) 同じ教会バザーでの奉仕に際して、一つの目になるものに食堂売店がある。日頃、食事

を調理することに腕に覚えのある主婦たちが、婦人たちの中には沢山そろっている。

奉仕はチームで担当することになるわけだが、仕事を分担し、他人の腕を信頼し、まかせると言うことがなかなかできない人がいるものである。きよめられてこそ、「からだの中に分裂がなく、それぞれの肢体が互いにい

たわり合う」(Iコリント十二・25) という自制を学ぶのである。

(3) アナニヤとサツピラは、全財産を献げたバルナバが、教会によって賞賛されたことをうらやましいと思ひ、自分たちもほめられようとして全財産を売却した。お金が惜しくなって、一部分を持って来て、これで全部ですと偽ってしまった。

きよめられないと、どんなに献金をしても、神に喜ばれることより、自分を喜ばせることが入り込んで来てしまう。

あの人のように献金したいと競争した人がいた。献金額は伸びたが、あの人を追い越した所でとまってしまった。ついでに信仰までとまってしまった。

二、役員会で

(1) 一生懸命奉仕をして小さな教会を支えている信徒役員がいた。教会は新会堂の建築をめぐってかなり厳しい対立があった。次の年の役員改選に際してその信徒は役員に選ばれないという結果になったのである。

自分の教会を愛する心は、兄弟姉妹たちから受け入れられなかった。自分はこの教会にとっ

て居なくてもよい人間だ。自分のこの教会での使命は終わったのだと思ひ、出て来なくなってしまう。彼の一生懸命は、人に見せる為だったのだからか。

(2) 役員会で、彼の発言は受け入れられなかった。時期尚早、理解不充分、予算上の不安感などがネックになっていた。いちいち説明することをしないで、彼は落胆し、やる気をなくしてしまつたのである。自分を全面的に否定されたと思ひ込んだのである。

これは教会活動で直面する問題である。周囲の他の人々にも問題はあられるかもしれない。しかし、本人が、もしきよめられて

いさえすれば、主の御栄光のみを仰いで、主に時間と場合と方法を委ねることが出来るはずである。教会の破れは繕われる。

三、折りについて

私は、もう老人ですから、何にもお手伝いできません、という人がいる。しかし、祈りができればたいしたことなのである。

「あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父が与えて下さる」(ヨハネ十五・16) と約束されているのであるから、祈りは、何もできないことのしるしではなく、父に願って新しいことを生み出していくわざである。

あなたは祈りさえできれば、教会の破れが繕えるのである。あなたは、きよめを求めて、主の御心を祈り求め、「あなたのする事がまだ一つ残っている」(ルカ一八・22) との聖言に従って、全てを明け渡し従ひ、聖霊の満たしを頂いた。

しかし、その後、私は御霊の實を結んでいるであらうか。私はその後も事ある毎に、折ある毎に、自分の全てを明け渡して、主の御支配に委ね続けなければならぬ。神の示し給う課題について委ねて従う信仰の姿勢を

と継続する時、私はきよめの恵みを継続し、御霊の實を内に育てて頂ける者となるのである。

キリストがわたしのうちに生

第7回聖化大会のお招き

教会形成の中心的命題としての聖化

第7回聖化大会実行委員長

チャーチ・オブ・ゴッド川崎南部教会牧師

伊藤 昭 吉



第七回聖化大会に本紙読者の諸師、諸兄弟をお招きできることを嬉しく存じております。

この度の主講師であるドナルド・E・デマレー博士は北米フリー・メソジスト教団の正教職で、アズベリー神学校において説教学を中心に教鞭を取っておられ、主に実践神学の分野で知られている器です。今日の日本における霊的必要性をご存じの主は、もともと相応しい神の器をお遣わし下さったと確信しております。

今日、多くの教会論が紹介されて久しくなります。ことに教会成長論における研究の成果には目を見張るものがあります。過去十数年間の教勢のデータから趨勢を読み取り、分析する課題を把握し、可能性を見出し、新たな宣教戦略(方策)を立てて努力する。という言わば科学的教会成長論です。一方、心理学の援用による牧会カウンセリングの研究も盛んです。そのいずれもが教会がこれまで未開拓の分野でした。それだけにこうした教会成長論は時代の寵児の

感があります。

しかし、私たちはこれらの研究による恩恵を受けつつも、なおゆるぐことのない確信は福音の宣教と教会形成を繋ぐ紐帯は聖潔の実践であるということですから。即ち、ホーリネスこそが教会形成の中心命題であると言うこととす。今回の聖化大会を開催するに当り、萬田真実会長はこの点について指導され、「ホーリネス・エバンジェリズム」という理念を掲げられました。

教会の中心的な奉仕である説教について、あるいは信徒の育成についてホーリネスの視点から論じられるデマレー博士のセミナーに期待がかかります。また磯崎国和先生、鈴木一郎先生の豊富なご経験からホーリネスが講壇と牧会にどのように生かされておられるかをお聞きできることは、なんと素晴らしいことでしょうか。今大会は以上のような理念のもとでプログラムが組まれております。諸師、諸兄弟が昨年にもまさるご関心を喚起され、ご参加されるようにお祈りしております。

第7回聖化大会

主講師プロフィール



ドナルド・

E・デマレー博士

現在、北米フリー・メソジスト正教職で、三十年近くアズベリー・セミナーにて、説教学を中心に教鞭を取っておられ、ご夫人とともにすでに全米各地はもとより、英国、スコットランド、スイス、アフリカや東洋の各地で広く活躍しておられる。

現アズサ・バシフィック大学の学士取得を皮切りに、アズベリーにて神学修士に、次いでエジンバラ大学にて哲学博士号を取得された他、母校だったロスアンゼルス・バシフィック大学より、名誉法学博士号を贈られた。他にチューリッヒ大学や南カリフォルニア大学にも学ばれた。

著作活動も膨大で、三十余冊の中には、説教に関するものだけでなく、ウエスレーの祈禱、スボルジョンの祈禱、讚美について、トマス・ア・ケンピスの要約「聖フランシスに関してなど広範囲に及び、哲学博士論文には、「アメーシング・グレイス」の作者ジョン・ニュートンの研究が選ばれた。

聖書に関してはアルダスゲイト・シリーズで、「使徒の働き」を担当、その他、信徒向けの書物も少なくない。説教と牧会に関して数十年の経験と共に、広汎な、しかも有益な御奉仕が期待される神の器である。(今大会 案内チラシより引用)

主講師新刊書の発行

『キリスト教神学入門』

主講師のD・デマレー博士の好著。穩健な立場にたつて牧師にはもちろん、信徒の方々にも安心してお勤めできるものです。今聖化大会に発売予定。福音文書刊行会より、翻訳は芳賀正先生(フリー・メソジスト小金井教会)です。



地域だより

第四回 札幌聖化大会

第四回札幌聖化大会は、一九九二年五月二七、二八日、北海道クリスチャン・センターを会場に、小林和夫先生を講師にお迎えして開催されました。

小林先生は二回の聖会においては「自我の死としてのきよめの恵み」(ヨハネ一・二・三・四・五)と、「実を結ぶ生涯としてのきよめの恵み」(ヨハネ一五・一六・一七)と題して、キリストにあつて生きる恵みを語られました。また聖会毎に信徒の証し人が立てられ幸いでした。

セミナーにおいては、「聖化の聖書神学的展望」(イザヤ書・ローマ書)と題して、旧新約聖書に展開されている聖化のメッセージについて感動的にお話し下さいました。

出席者は、聖会は一・二回とも約一二〇名、セミナーは同じく四〇名でした。

「聖化」の旗印をかざして歩む事に喜びをもち、同信の愛する教師方と共に栃木ブロック・ニュースをお届けて嬉しく思います。

まず、喜びの第一は、来年か再来年には関東聖化交友会委員会にてお招きの外来講師を、栃木ブロックにも一日間、スケジュールを分けて下さる事が承認された事です。正に福音です。

次に栃木のスケジュールです。

「第四回栃木ブロック 聖化大会」

日時 九月一八日 午後七時半

場所 宇都宮コンセーレホール

講師 村上宣道先生

「第五回栃木ブロック 聖化大会」

日時 来年三月一四日(日) 夜

場所 宇都宮コンセーレ(日) 兄弟団宇都宮教会(月)

講師 竿代忠一先生

尚、聖化の恵みを求めるブックが各地区に生まれる事を心からお祈り申し上げます。感謝

日本 JHA 関東

事務局ご連絡

(萬田)

▼JHAの再編成を御存知でしたか。関西を中心とした「ジョン・ウェスレーに学ぶ会」をはじめ、東北にも、東海地区にも九州にも、栃木にも、信仰と目的を同じくする交わりが、次々と生れているので、それらの交わりの成長段階や実情は多様ですが、従来の「日本JHA」がそれらすべての交わりを包んでいくものとして、「関東JHA」も地区別を主にした交わりとして、「日本JHA」のもとに「関東JHA」も活動を開始して略二年を経ました。

東JHAに従来のようにメンバーとなつていただくことも御自由ですが、この際、通常御奉仕をしておられる最寄りの交わりに、移られることも御自由にしていただき、この機会に、

▼そして例年秋の「聖化大会」(本年は第七回)の実務や、全国のJHAの事務の大半も、現状では「関東JHA」が奉仕させて頂いて頂いています。

▼それで従来の会員方のメンバーシップも、整理中で、

(3) 関東では会員名簿を新しくして、会員番号を御一人一人に差し上げよう準備中ですが、従いまして、お尋ねが届きましたら、御手数ですが、改めて「関東JHA」へ再登録してくださり、会員証(準備中)を会員番号と共に、お受け取りください。会費は今までどおり年三千円となっております。

▼ジョン・ウェスレーに学ぶ会」にも加入しておられる場合には、会費は同会かJHAのいずれかに納めて頂ければ良いことになっていきますので、そのことも御返事いただけると幸いです。

(1) どの地区のJHAMまたは、同目的の諸地区の会員となることを選ばれるか、今後も関東JHA会員として御協力を頂けるか、お問合わせなどをしつつあります。

▼御献金は「日本JHA」のためとか「関東JHA」のためとか御指定くださったれば、その通りに扱わせていただきます。事務は今も同じ事務局で扱っております。御祈りと御協力を!

第5回 東海聖化大会

- 日時 10月22日(木)
- 場所 福音センター(イムマヌエル名古屋教会)
- 講師 ドナルド・E・デマレー博士
- テーマ 「ホーリネスと教会形成」
——信徒の成長を中心に——

第23回 ジョン・ウェスレーに学ぶ会(大阪大会)

- 日時 10月23日(金)
- 場所 日本フリーメソジスト教団 大阪日本橋キリスト教会
- 講師 ドナルド・E・デマレー博士
- 内容 公開講座「きよめに基づく教会形成」
聖会「きよめ」と信仰生活

総務リポート

▼「聖化」第14号をお届けします。今秋の聖化大会の案内号となります。全国各地で大会が開催されますが、どの地においても聖化のたしかな経験と宣証がなされるようにと、心から願うものです。(編)